

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	コンビニ（店 長）	販売量の動き	・合宿や観光に十分対応できたことで、8月の売上は前年比107%、来客数105%と大変良い数字になっている。
		通信会社（営業 担当）	販売量の動き	・7月に引き続き販売量が増加しており、雇用についても大幅に増員していく方針で、更なる利益拡大と業界シェア率向上に拍車がかかる。
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	販売量の動き	・液晶ハイビジョンテレビを中心とした高額商品が売れている。
		商店街（代表 者）	お客様の様子	・夏祭りの人出は前年より多く、子供の支度に数万円かける親もいる。
		百貨店（販売促 進担当）	販売量の動き	・新しい催事を企画したところ、予想外に客の反応、売上が良く、全体的な数字の底上げにもなった。新しい仕掛けをすれば、それなりに客は反応してくれる。
		コンビニ（経営 者）	来客数の動き	・今年は祭り、花火大会、コンサート、すべてのイベントが天候に恵まれており、ファーストフードがよく売れている。
		乗用車販売店 （販売担当）	お客様の様子	・生き残った会社が少しずつ良くなってきており、長期月賦ではあるが車を買に来る従業員が増えてきている。やっと少しずつ良くなってきている。
		一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・有名避暑地周辺ということもあり、避暑地関係のインターネット、チラシでの宣伝に力を入れたところ、影響があったのか県外客が増えている。
		スナック（経営 者）	来客数の動き	・宴会の動きは今までどおりだが、1月からずっと減少傾向にあったフリー客の動きが上向いてきている。一時的なものかもしれないが、良い方向である。
		タクシー（経営 者）	お客様の様子	・花火大会の人出が前年より多かった分、深夜までタクシーの利用客が多かった。お盆中も前年に比べて客の動きが良かったので、前年同月比で8%の増収となっている。
その他レジャー 施設〔アミュー ズメント〕（職 員）	販売量の動き	・来客数は間違いなく増えている。深夜時間帯の割に客が減らない。ひところより増えている。インターネットブースなどもかなり客が来ており、ある程度そういったものにお金を使うという流れができつつある。		
住宅販売会社 （経営者）	お客様の様子	・なかなか成約には結び付かないものの、土地、貸し店舗、アパート等の引き合いがやや多くなってきている。値段のかなり安い物は成約となっている。		
変わらない	百貨店（販売促 進担当）	販売量の動き	・暑さが続いて、夏物クリアランスが好調である。夏休みの子供イベントも前年並みの売上と集客となっている。	
		スーパー（経営 者）	販売量の動き	・3か月前と比べると売上、来客数共にほぼ横ばいの状態である。5月と比べ日曜日が1回少ないことを考えると、多少は良くなっている。
	スーパー（総務 担当）	販売量の動き	・食品、衣料品関係は前年をクリアしている。身の回り品等の日用雑貨あるいは日用品等は前年割れで、トータルすると前年比95%という状況である。	
	スーパー（統 括）	単価の動き	・食品は、単価に下げ止まり感はあるものの、前年比99.7%とわずかに割り込んでいる。前年に比べ気温差が大きく、飲料、ビール、乾めんが不振で、特にビールは第3のビールの伸びに押され、90%程度にダウンしている。野菜は台風や大雨の影響で昨年は高値であったが、今年は安定出荷で前年の80%前後と相場が低迷している。クールビズについては、半袖、ボタンダウン、柄物のワイシャツは、6月以降だけでみて138%、平均単価も105~108%で推移している。あおりを受けたネクタイは92%となっている。	
	コンビニ（店 長）	お客様の様子	・客と雑談するたびに景気が悪いという話が出ていたが、最近はあまり出なくなっている。	
	家電量販店（営 業担当）	販売量の動き	・エアコンの販売量は6、7月と前年比80%であったが、8月は125%と好調である。一方、映像商品等が単価ダウンで苦戦している。	

	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・8月のお盆前に駆け込みで販売、売上共に伸びたが、休み明けになってなかなか契約に結び付いていない。
	住関連専門店 (仕入担当)	販売量の動き	・前年と比較すると夏物商材の動きが7月から8月に移行している。売価を下げてからの販売が多く、販売数は前年同時期とほぼ同じであるが、売上は減少している。
	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・夏期間間なので、通常に比べると当然集客率、単価共に高くなってはいるが、トップシーズンとしては例年並みか若干下回る程度である。
	都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・5月以降来客数の低迷が続いている。他県からの出張者等の激減が続いており、市全体の活気がなくなっている。
	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・夏祭りやお盆の帰省、8月後半の全国大会規模の大きな催物などで、人の動きが大分多くなっている。それに伴い、各飲食店、ホテル関係の来客数も増加している。
	観光名所(職員)	お客様の様子	・客の入込は例年以上であるが、スーパーで買物をし、自分の別荘などで食事をする客が多く、レストラン、ホテル関係は一部の人気店を除き、売上は例年を下回っている。
	競輪場(職員) 設計事務所(所長)	お客様の様子 それ以外	・来場者数、購買単価共に変化がみられない。 ・今月大型の物件が決まり、その関連で下請業者がたくさんきているが、彼らは一様に非常に悪いと言っている。当社は良くても悪いところもあるので、全体ではそれほど変わらない。
	住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・市場の地価が随分落ち着いてきてはいるものの、底を打ったという感覚でまだ客の動きが鈍い。少々、上昇に転じれば動きも良くなると思われるが、まだ横ばいである。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・近くの衣料店で5割引をしているのに来客数はまばらである。景気は一向に良くなっていない。
	百貨店(売場主任)	販売量の動き	・7月まではクールビズのおかげでワイシャツ、ブレザー等を含めて非常に順調な動きであったが、8月に入ってから来客数、販売量の動きが少なくなっている。
	スーパー(経営者)	競争相手の様子	・競合店の価格対抗のチラシ広告が増えている。売上が伸びている様子もない。
	スーパー(店長)	単価の動き	・野菜、果実の相場安で量売っても、単価の下落をカバーしきれず、特に昨年台風の影響で高騰した物は、ギャップが大きい。果実の産地なので地域の景気が良くない。「台風でも来てくれれば…」の声も聞こえるほどである。
	スーパー(販売促進担当)	販売量の動き	・今月は夏休み、お盆にもかかわらず、3か月前に比べ来客数が97%、客単価が90%で、結果、売上は87%と落ち込んでいる。衣料品の夏物処分を前倒しで行ったため、後半に売行きが大きくダウンしたことが原因である。
	高級レストラン(店長)	それ以外	・販売量自体はそれほど変化がないが、BSEや原油価格の急騰の影響により、仕入価格が急激に上昇し、かなり厳しい状況になってきている。
	都市型ホテル(スタッフ)	競争相手の様子	・ホテルをリニューアルする必要があるが、大きな資金が掛けられないという同業者がいるが、当ホテルも修繕に大きな金額を掛けられないというのが現状である。来客数は減少してきているので、非常に憂慮している。
	遊園地(職員)	来客数の動き	・台風も少なく天候に恵まれたにもかかわらず、愛知万博の影響か、来客数は前年比95%程度にとどまりそうである。
	その他サービス [自動車整備業](経営者)	来客数の動き	・前年並みとなっていた車検の入庫量がここにきて若干落ちてきている。特に貨物車を減らす町工場などが徐々に増えているようである。
悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・夏のバーゲンを行ったところ、バーゲン目当ての客は来店したが、それ以外の客は全く来店せず、バーゲン終了とともに、店が本当に閑散としてしまっている。

企業 動向 関連		百貨店（店長）	販売量の動き	・3か月前は前年の売上をクリアしたが、今月は店頭、外商共に80%台と大苦戦である。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・24時間営業の小型スーパーの影響か、夜間の客が特に減少している。
		衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・例年8月は来客数が少ないが、今年は8月に入り特色のある飲食店が近隣に相次いでオープンしたためか、通行量、来客数が激減している。これほどの減り方は過去初めてである。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・来客数が2割程度落ち込んでいる。冷夏で夏休みの来客数が大きく落ち込んだことはあるが、今年のように夏らしい天候にもかかわらず、大きく落ち込んだことはない。一部愛知万博の影響もあるにせよ、他の原因は不明である。
		タクシー運転手	競争相手の様子	・タクシー利用客が少ないので、迎車料金や深夜割増料金の値下げサービスを始めた会社が1社ある。
	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	電気機械器具製造業（営業担当）	それ以外	・業種によって異なっているが、総じて上向き傾向にある。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注量、販売量、販売価格、取引先の様子等、非常に好調である。
		広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・プライダル関係の新規出店、リニューアルに伴う広告宣伝が活発である。競争が激化している状況下で、積極的に宣伝費を投入している。一方で、競争力のない施設の衰退もある。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注単価は厳しい状況が続いているが、引き合い、受注量は順調に推移している。客の情報化投資も活発になってきている。
変わらない	食料品製造業（営業統括）	競争相手の様子	・一部中小メーカーが地場産ワインで健闘しているものの、全般的に相変わらず安価な輸入ワインにおされている。	
	化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量に大きな変化はない。石油製品の値上がり分は価格転嫁できずにいるが、処理方法の変更により値上がりとなった産業廃棄物については、何とか価格転嫁できそうである。	
	一般機械器具製造業（生産管理担当）	受注量や販売量の動き	・取引先の夏休みや仕事量の一服感もあるものの、前年同月比で売上が2割程度増加している。	
	その他製造業〔看板〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・一般商店からの受注は横ばいであるが、工場関係の受注がやや多くなってきている。しかし、まだ景気が良くなるほどではない。	
	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・相変わらず宝飾品の動きは鈍い。大手の真珠卸会社の倒産もあり、一時収まっていた信用不安が出てくる可能性もある。まだまだ回復基調をみるに至らない。	
	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	取引先の様子	・今月のチラシ出稿量は前年比105%である。前年はオリンピックで例年に比べ出稿量が少なかったことを考えれば、平年並みである。原油価格の高騰で、観光バス、タクシー会社では、具体的な経費節約に取りかかっており、今まで出していた広告も控えていると聞いている。一方、この3～4か月、小売業のチラシ出稿量に力強さが感じられる。	
	その他サービス業〔放送〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・サービス業、流通業などからの新規のスポットコマースが出ているが、期間が短く小口化している。中長期のタイムコマースが減少しており、売上が伸びない。	
やや悪く なっている	食料品製造業（製造担当）	それ以外	・商品の出荷数量は前年並みであるが、石油製品値上げの影響分だけ利益が出なくなっている。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・例年と比較しても、店頭一般商品の受注が減少傾向にある。特注品に関しても受注状況すら読めない。	
	輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が落ち込んでいる。前年比で10%、3か月前と比べ約15%減少しており、6、7月と比べても悪い。	

		輸送業（営業担当）	それ以外	・輸送量は前年比で2割ダウンしているが、それ以上に原油の高騰による燃料の負担が大きく、利益確保が難しい。
		金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・愛知万博の影響で、観光地の旅館、ホテル、売店等の状況が芳しくない。例年より売上が3割程度落ち込んでいる地域もあるようである。
	悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・8月はとてつもなく売上が落ち込んでいる。通常取引先が3～4割減、全体では前年同月比約半分以下となっている。
		建設業（総務担当）	競争相手の様子	・公共工事削減の影響で、受注競争が厳しい。ほとんど受注がない状況のため、赤字覚悟で受注に走る企業が出てきている。
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・製造業にかなり動きがある。サービス業にも相変わらず需要が多い。
		求人情報誌製作会社（経営者）	周辺企業の様子	・今まで3万円だったところを10万円枠にするなど、周辺企業の広告宣伝経費が増加している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・メインの仕事先である宿泊施設では、前年より若干稼働率が伸びた地域もあれば、伸び悩んでいる地域もある。
		求人情報誌製作会社（経営者）	採用者数の動き	・地域の広いエリアで派遣社員の募集が多くみられるが、採用者数は少ない。サービス業では、パート、アルバイトの募集は多いものの、正社員の募集は極端に少なく、募集職種も絞られている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・一部、個人住宅の建設が出てきており、関連企業の求人が目立ってきている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前月同様、5,000名を超えたが、一般求人が減少し、パート求人が増加する傾向が続いている。派遣、請負等の不安定求人が求人全体の約25%を占める反面、直接雇用の求人は横ばいで景気停滞の要因がみられる。
		職業安定所（職員）	それ以外	・来春の大卒、高卒の新規学卒者求人は、自動車関連を主として、前年度比でそれぞれ20%ほど増加しているが、今後は落ち着いてくる。その他のサービス等は減少している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は依然として横ばいの状態である。少しずつ正社員採用の動きが出てきているが、募集は若年者に限定されることが多い。加えて優良な人材を求めていることから、面接で不採用になることも多く、まだ厳しい状態が続いている。
		学校〔大学〕（総務担当）	採用者数の動き	・学科により差はあるが、就職希望の学生の内定率が平均約66%であり、少し伸び率が遅いようである。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	求人数の動き	・8月の中旬以降から再開された企業の採用活動では、例年同時期に比べ、やや積極的な動きがみられる。ただし、技術系、営業系に対する求人は多いものの、事務系の求人は相変わらず低い傾向にある。
やや悪くなっている				
悪くなっている				